マラウイ通信

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドーワ県立病院

【言葉】マラウイにはいくつかの部族が存在し言語も地域により異なります。大きく分けて北部のチェワ語、南部のトゥンブカ語です。私の地域は中部に位置しておりチェワ語が使用されています。職場内では英語が通用するのですが、一般人と話したり、コミュニケーションを取るにはチェワ語が必須です。とは言っても新たな言語の取得は難しく、買い物で使用する程度の語彙力しかまだありません。英語とチェワ語を同時進行に勉強しています。もう一方の英語ですが、英語は公用語の一つでもあります。発音や文法は正確とは言えませんが、職を持っている方はある程度英語ができます。というのもちゃんと学校を卒業していれば英語が話せるレベルにあるのです（教育事情については後日説明）

逆に言えば、英語ができない＝学校をちゃんと卒業していないという事と思われます。つまり私は、それのように思われてもしょうがないという事です。日本人には英語を喋れる人は少ないよ。とか日本語しかないよ。と言われます。こんな風に異文化というだけで人の印象は大きく変わってしまいます。

【マラウイ犯罪事情】

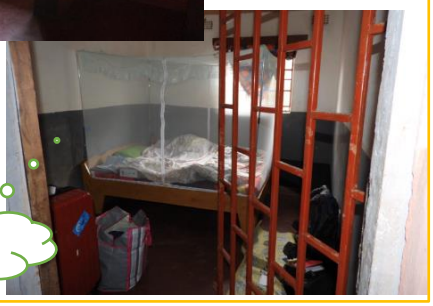
”warm heart of africa”と呼ばれるマラウイ人は基本的に温厚な生活で争い事を好みません。その性格から隣国と比べて発展が遅れたという説もあります。他の諸外国と比べても犯罪件数は少なく、JICAとしても比較的治安の良い国と位置づけられています。しかしながら日本と比べると治安が悪いのは言うまでもなく、金持ちに見える私たち日本人が犯罪に巻き込まれる事も少なくありません。年末には20代日本人が刃物で切り付けられ金品を奪われる事件や、同期の配属している学校での刃物による強盗事件、さらに違う同期の任地でも連続強盗殺人事件が発生しました。私達が赴任してから４か月ほどの期間で続けての事件でしたのでショックを隠し切れない隊員もいましたが、改めて外国に来たことを認識して気を引き締めなければならないと思いました。ここマラウイでは日本の常識が通用しない場面が多々あります。マラウイで発生した吸血鬼事件をご存知ですか？日本で吸血鬼と言えば空想世界の存在ですが、マラウイ人は吸血鬼や黒魔術の存在を信じています。その結果、吸血鬼の疑いをかけられた住民が自警団により殺害されるといった残虐な事件が勃発しました。その影響を受け、昨年末には多くの隊員が避難し活動停止を余儀なくされました。そういった不測の事態が起きる可能性を考えると自分が有意義に活動を行える期間は思っているより少ないかもしれません。

【自宅公開】大きな家に一人で住んでます。掃除が大変です。家のドアには隙間があり完全に閉まりませんので夜には羽蟻の大群が押し寄せます。他にも見慣れない変な虫が沢山います。唯一蚊帳の中が安心できる安全地帯です。

外観

リビング

キッチン


寝室

（あとがき）歳を重ねるにつれて睡眠時間は短くなっていくのでしょうか、、停電中の夜は８時か９時頃に就寝するのですが、どうしても夜中に目が覚めてしまいます。目が覚め、時計に目を向けるとまだ日付もあまりたっていないのに、テレビをつけるとまるで夜の様な境地を味わっている事も出来ないのです。そのお陰で時間が増えました。時間も大切だなと思いました。時間は世界中同じ早さで進んでいる筈なのですが、どうやらアフリカと日本では違いがあるように感じます。待ち合わせの時間、会議の時間、ただ人と道端で話す時間、基本的に時計を見ながら生活をしないマラウイ人にとって時間を守る人はほとんどいません。慣れてきました。